

## コロンビア政治情勢（２０２４年３月）

### 1 概要

#### 【内政】

- (１) ２０２３年国連人権高等弁務官事務所報告書の公表（１日）
- (２) 反体制派セグンダ・マルケタリアとの交渉開始（１日）
- (３) EMC との和平交渉と停戦中断（３～１０日）
- (４) 政府に対する抗議デモ（６日）
- (５) ペトロ大統領に対する選挙献金疑惑に関する捜査の開始（８日）
- (６) 新検事総長の選出（１２日）
- (７) 国防大臣と保健・社会保障大臣への不信任決議案提出と否決（１２～１９日）
- (８) 政府はコカ違法栽培の強制撤去目標を半減（１４日）
- (９) 先住民族の権利に関する国連特別報告者が予備報告書を提出（１５日）
- (１０) ペトロ大統領、制憲議会の招集を提案（１５日）
- (１１) 各種世論調査

#### 【外交】

- (１) ペトロ大統領、第８回 CELAC 首脳会議に参加（１日）
- (２) 欧州連合、コロンビア和平プロセス支援に２．５百万ユーロの拠出を発表（５日）
- (３) 第４回コロンビア・英国ハイレベル対話の実施（５日）
- (４) 米国務省国際麻薬管理戦略に関する年次報告書の公表（５日）
- (５) グプタ米ホワイトハウス麻薬管理政策局長のコロンビア訪問（６日）
- (６) 米国政府による予算要求は対コロンビア支援が減額（１１日）
- (７) コロンビア外務省、ベネズエラ情勢に懸念を表明（２１日）
- (８) コロンビア外務省、ガザ即時停戦安保理決議を歓迎（２５日）
- (９) ミレイ亜大統領によるペトロ大統領誹謗発言に対する反発（２７～３０日）

### 2 本文

#### 【内政】

- (１) ２０２３年国連人権高等弁務官事務所報告書の公表

１日、ペトロ政権下で初めてとなる２０２３年国連人権高等弁務官事務所報告書が公表された。同報告書は、コロンビアの人権状況に関しいくつかの改善を認めつつも、犯罪組織の伸長による暴力の増加について警告している。

- (２) 反体制派セグンダ・マルケタリアとの交渉

1日、政府は、イバン・マルケス氏率いる FARC 分派のセグンダ・マルケタリアとの和平交渉を正式に開始すると発表した。国家選挙審議会（CNE）のアルマンド・ノボア判事が和平交渉の首席交渉官として任命された。

### （３）EMC との和平交渉

3日～10日にかけて、政府は EMC との和平交渉を行い、5月にも再度同交渉を行うと発表した。しかし、17日、EMC はカウカ県で先住民族に無差別発砲したため、ペトロ大統領は20日付でカウカ県、バジェ・デル・カウカ県、ナリーニョ県における EMC との停戦中断を命じた。なお、開発平和研究所（Indepaz）によると、EMC との停戦が開始された2023年10月17日から2024年1月31日まで、同グループによる武力行使は90件を数えた。

### （４）政府に対する抗議デモ

6日、国内主要都市において、ペトロ大統領が掲げる各種改革に反対する目的で野党勢力が呼びかけた抗議デモが行われ、平和裏に終了した。この抗議デモに対しペトロ大統領は、特権を失いたくないために変化を望まない勢力が仕掛けたものだと述べた。

### （５）ペトロ大統領の選挙資金に関する捜査の開始

8日、行政監察院は、2022年大統領選挙に際し労組団体が当時のペトロ大統領候補に対する違法献金を行ったとする疑惑について捜査を開始した。明るみになった同組合の財務報告によれば、献金額は10億ペソ以上に上る模様。なお、国家選挙審議会は、本件疑惑及び Fecode 社による裏献金疑惑についても調査を行っている。

### （６）新検事総長の選出

12日、ルス・アドリアナ・カマルゴ新検事総長が選出された。59歳のカマルゴ検事総長は、検察や最高裁でキャリアを積んだ他、グアテマラの無処罰問題対策国際委員会（CICIG）の弁護士グループにも参加した経歴がある。翌13日にはペトロ大統領とも面会した。

### （７）国防大臣と保健・社会保障大臣に対する不信任決議案の提出と否決

12日、ベラスケス国防大臣とハラミージョ保健・社会保障大臣に対する不信任決議案が、それぞれ上院と下院に提出された。ベラスケス国防大臣は、停滞する全面的和平政策や ELN 等武装勢力の伸長について問責された。ハラミージョ保健・社会保障大臣は、国内の医薬品不足などが問責の理由となった。19日に両院で決議案に対する投票が行われ、それぞれ反対多数で不信任決議案は否決された。

### （８）政府によるコカ違法栽培強制撤去目標の半減

14日、ベラスケス国防大臣は、強制的に撤去するコカ栽培のヘクタール数について、今年の目標を2万ヘクタールから1万ヘクタールに変更することを発表した。なお、ドゥケ前政権下では、2022年は10万ヘクタールの目標を立てて6万8千ヘクタールが達成され、2021年は13万ヘクタールの目標で10万ヘクタールが達成された。

(9) 先住民族の権利に関する国連特別報告者が予備報告書を提出

15日、先住民族の権利に関する国連特別報告者フランシスコ・カリ・ツァイ氏は、10日間にわたるコロンビア訪問を踏まえた予備報告書を発表した。同報告書は、2016年和平合意に民族章が盛り込まれたことを評価する一方、コロンビアの先住民族の人権状況は依然として構造的な問題を抱えていると指摘した。

(10) ペトロ大統領、制憲議会の招集を提案

15日、ペトロ大統領は、議会が政府提案の諸改革に対応できないのであれば、コロンビアは制憲議会へと移行しなければならないと述べ、大きな議論を巻き起こした。また、同大統領はインタビューに対し、制憲議会に関する提案は、自身の任期延長や再選のための提案ではないと述べた。

(11) 3月世論調査

ダテクスコ社調査（3月13～15日実施）：ペトロ大統領への不支持率は64%、支持率は30%。地域的な内訳を見ると、首都で大統領の牙城でもあったボゴタは、大統領不支持率が国内で2番目に高い地域であり、不支持率が67%、支持率が30%だった。大統領に最も否定的なのは東部地域で、不支持率77%、支持率18%。反対に、大統領支持率が比較的高いのは両海岸地域であり、カリブ海地域では不支持率58%、支持率36%、太平洋岸地域では不支持51%、支持率39%だった。

【外交】

(1) ペトロ大統領、第8回 CELAC 首脳会議に参加

1日、ペトロ大統領は、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）第8回首脳会議参加のため、ムリージョ外務大臣代行及びカマチョ鉱業エネルギー大臣を伴い、セントビンセント及びグレナディーン諸島を訪問した。同会議の中でペトロ大統領は、気候変動や和平対話、航空協力、学術協力等の強化について強調した。なお、コロンビアは2025年に CELAC 議長国となる予定。

(2) 欧州連合、コロンビア和平プロセス支援に2.5百万ユーロの拠出を発表

5日、欧州連合（EU）は、コロンビアの平和プロセス支援に2.5百万ユーロを拠出すると発表した。同発表は、コイ外務次官とワグナー欧州委員会外交政策情報サービス局長の会談の枠組みの中で行われた。

### （3）第4回コロンビア・英国ハイレベル対話

5日、コイ外務次官とラトリー英米州担当大臣は、ボゴタで第4回コロンビア・英国ハイレベル対話を行った。同会談では、2025年の両国国交樹立200周年を前にして、二国間の緊密化やコロンビア和平、人権状況、移民問題、気候変動対策、持続可能な開発、生物多様性に関するCOP16等における二国間の協力について話し合われた。

### （4）米国務省国際麻薬管理戦略年次報告書の公表

5日、米国務省は、2024年国際麻薬管理戦略に関する年次報告書を公表した。同報告書は、ペトロ政権の麻薬密売対策に対し厳しい見方を示しており、特にコカ違法栽培強制撤去を拡大する必要性について指摘している。

### （5）グプタ米ホワイトハウス麻薬管理政策局長のコロンビア訪問

6日、ラウル・グプタ米ホワイトハウス薬物管理政策局（ONDCP）局長がコロンビアを訪問した。同訪問の中でグプタ局長は、ペトロ大統領及び閣僚数名と会談し、コロンビアの麻薬対策推進における両国のコミットメントが確認された。

### （6）米国政府による予算要求は対コロンビア支援が減額

11日、米政府は議会に予算案を提出したが、同予算要求では対コロンビア支援が4億1300万ドルとなっており、バイデン政権下で最も低い要求額となった。

### （7）コロンビア外務省、ベネズエラ情勢に懸念を表明

21日、ムリージョ外務大臣代行は、ベネズエラで野党指導者マリア・コリーナ・マチャド氏の側近2人が逮捕されたことにつき、公正な選挙の実施に向けたバルバドス合意の履行に悪影響が及ぶ可能性があるとして懸念を表明した。また、コロンビアは引き続きバルバドス合意及び関係者間対話の促進を支援する用意があると述べた。

### （8）コロンビア外務省、ガザ即時停戦安保理決議を歓迎

25日、コロンビア外務省は、国連安保理で承認されたガザでの即時停戦を求める決議に対する支持を表明した。翌26日、ペトロ大統領は、イスラエルがガザでの停戦に応じない場合にはイスラエルとの外交関係を断つ旨ツイートした。

### （9）ミレイ亜大統領によるペトロ大統領誹謗発言とその反応

27日、ミレイ亜大統領は、CNNのインタビューで、ペトロ大統領について「殺人テロリスト」と表現するなど誹謗発言を行った。これに反発したコロンビア外務省は、在コロンビア亜外交官の国外退去を命じた。しかし、31日、両国政府はロメロ駐亜コロンビア大使の帰任、次期当地亜大使へのアグレマン付与及びモンディーノ亜外相のコロンビア訪問を発表することで事態を収拾した。

(了)